

世界を知り尽くした 岡村龍哉

岡村 龍哉の宝石・健康紀行「ロシア」編 (2008)

B R I Cs (ブラジル・ロシア・インド・中国) 4カ国の人口は世界195カ国 66億人中 28億人 である。4カ国で世界人口の約42%を占めている。4カ国中最も人口の少ない(約1.5億人) ロシア の存在感は他国を圧倒している。1991年12月25日ソビエト連邦が崩壊し領土の大部分を引き継いだロシアは、今や軍事大国から 資源大国 でその存在感を示している。(ロシアの面積は17,075,200Km²で世界第1位、日本の面積377,835Km²の45.192倍) 2007年のイヤーパーソンはロシアの プーチン 大統領だ。そのロシアの 首都モスクワ は、 人口1200万人 の大都市だ。モスクワの玄関口 シェレメチェヴォ 2国際空港 に着いた。 ‘ブル〜ン’ と寒さが身にしみる。この寒さは人間を含む動物にとっては難敵だが、その試練に対して自然は輝かしい宝石を授けた。 宝石は大別して 90種類 、 細かく分類すると 300種類 に上る。 多くの宝石は灼熱の太陽が注ぐ暖かい国で生まれる。しかしながら、例外的に寒い国、ロシアは 宝石の宝庫 である。寒い国ならではの特徴が結晶体に顕著に現れる。結晶は色彩と透明度に反映される。ロシアのダイヤモンドは、南アフリカやオーストラリアのそれとは用意に区別出来る。 【透き通った】 で区別出来るのだ。宝石には 5大宝石 と呼ばれるジュエリーがある。ダイヤモンド・ルビー・サファイア・エメラルド、そして、『アレキサンドライト』 だ。岡村の大好きな宝石だ。今回のロシア訪問は、5大宝石の 筆頭格 とも言える 《幻の宝石》 の買い付けだ。 ‘ブル〜ン’ 寒さか武者震いかは分からないが、本当に身が引き締まる。

首都モスクワの中心地ペトロフガ通り、買い付け当日だ。今回は、お洒落なモスクワっ子が行き交う場所での取引だ。

ここで、シンプルに 『アレキサンドライト』 の説明をしよう。

正式名を クリソベリル・アレキサンドライト CHRYSOBERYL ALEXANDRITE (日本名：金緑石, 化学成分：BeAl₂O₄, 宝石言葉：秘めた思い, 6月の誕生石) と呼び、モース硬度(押し込み強度) 8.5 は、ダイヤモンド10、ルビー・サファイア(コランダム類)9に次ぐ硬さを持ち、光のスペクトルの分光吸収によ

り2色(3色とも言うが)の**変色性**を持つ。この変色性は、クリソベリルが**クロム(Cr)**成分の含有によって着色され(ルビー・エメラルドも同じ)、ルビーとエメラルドの各色の中間的な色バランスをとるために生じる。**太陽**の自然光下では**エメラルド色(緑色)**に、**蛍光灯**では**エメラルド色~ブルーダイヤモンド色(緑~青色)**に、**白熱灯**の赤色電灯による電灯光では(**JO ギャラリー**内のコレクションBOXの光)**ルビー色(赤色)**へ驚くほど鮮やかに変化する。5大宝石として世界的に評価されているにも関わらず、これまで、市場に殆ど流通していない**《幻の宝石》**として目に触れる機会が稀有であった。それは旧ソ連の**ウラル地方**が良質な石の主要産地だった為、資本主義社会への市場が発達しなかったからである。

しかし、**1991年12月のロシアの誕生**により、少しずつ輸出されるようになり、ヨーロッパ諸国では今日、高級ジュエリーの代表として愛用されている。日本にも近い将来、必ずアレキサンドライト市場が確立されることは間違いないと確信し、数年前から取り扱いを増やしている逸品だ。また、名前の由来は、今から**178年前の1830年にウラル山脈東側のトコワヤ地方で初めて発見**された。美しくカメレオンの性質を持つ珍しい石であったので、当時のロシア皇帝ニコライ2世(帝政ロシア時代)に献上された。献上日の4月29日がアレクサンドル2世皇太子の12歳のバースデーだったので命名された。(アレクサンドル2世の即位した日にちという説もあるが)

主石のアレキサンドライトをラウンドブリリアントカットに整え、脇石をルビーやエメラルドで支えるデザインを楽しむと格別な逸品となる。もちろん、オーソリティーさをより表現する為に**プラチナ**台で仕上げよう。また、**【真に色の変化が顕著な石】**を選ぼう。取引相手の**ジュガーノフ**はロシア第2の都市サンクトペテルブルク出身の典型的なロシア人だ。途方も無く大柄だ。ロシア人の中にもよく目立つ。思い描いていた以上の**《幻の宝石》**に出会え、大満足だ。(JO ギャラリーにて展示中)**キャビアとウォッカで乾杯だ!**



ビジネスを終え、二日酔いの後は観光だ。モスクワは、素晴らしい美術・芸術・文化の町だ。きっと訪れるとロシアのイメージは誰しも向上する筈だ。

経済クラブと呼ばれる

O E C D（経済協力開発機構）30カ国中、

2006年の日本国民一人当たりのGDP（名目国内総生産）は、2005年比-4.0%で15位からフランス・ドイツ・カナダに順番を抜かれ18位（398万円）に下げた。（1993年は2位だった）また、世界のGDPに占める日本のGDP（508兆円）比率は24年振りに10%を割り込んで、前年-1.1%の9.1%だ。
[2007年12月26日（水）内閣府発表]

また、世界経済への寄与度に至っては、2%に過ぎない。ちなみにロシアの寄与度は日本の2倍の4%に及ぶ。

TASK（課題）に直面すると

S W O T 分析（Strength / Weakness / Opportunity / Threat）

を解決手段の一つとして私は活用している。

個別の強み / 弱み / 機会 / 脅威 を勘案し、

事柄に応じた修正チャートをマークし、Investment & Return を Gross で判断する。日本とロシアを SWOT 分析で考察すると、日本陣営の戦略は有限で時間との勝負を ‘ブル～ン’ と実感した。